
感情変異

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

感情変異

【Nコード】

N48220

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

私の頭はおかしいって話

(前書き)

非常識な話です。

私の頭はどこかの線が一本切れているのだ

今朝じいちゃんが死んだ。随分前から肝臓や腎臓が悪く入退院を繰り返していたが、今朝早く病院の看護師が巡視中に、心停止しているじいちゃんを発見したとの事だった。

ばあちゃんは、泣き崩れていたが、母や父の表情には何か安堵のようなものが感じられた。

母や父は、通夜の準備やら親戚への連絡でバタバタしていた。私は特に気にもとめていなかったので、無関心に徹していたが流石に家から出る事は出来なかった。

そして私が、いや私の頭がおかしい事がわかる瞬間がやってきた。通夜が始まると、坊主が命の抜けたじいちゃんの抜け殻にお経を唱え始めた。

その時だった。私の心は脇腹や足の裏、脇の下をそれはもうしつこい位にくすぐられる様な感覚に襲われ、笑いたくて仕方なくなっ

た。
親族なので、その場を離れる事が出来ず、真っ赤な顔をして笑いを堪えていた。その様子を見て母がかなり私が悲しんでいるのと勘違いし、背中をさすってきたが、次第に笑いを堪えられなくなり、とうとう大声で涙を流しながら大笑いしてしまった。

すぐさま、『マズい！』と感じその場から飛び出し、建物の裏に行くことと笑いが止まらなくなっていた。

葬儀の時には母と父に説明し、私は参列を拒否した。親族からは非難の視線を浴びせられたが、悲しみを感じなければならぬ空間で笑うことを躊躇した結果だったので気にしなかった。

だから、私の頭はどこかの線が一本切れているのだ

そう思うしか他に無かった……。

(後書き)

けど、世界にはこんな人沢山いるんだろっなと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4822o/>

感情変異

2010年10月24日04時20分発行